アラスカとの出会い (2)

星野 道夫

次の表は、教科書本文の内容をまとめたものである。

まとまり１	まとまり２	まとまり３
雑誌社のカメラマンに会うために車でホテルに向かっていた「僕」は、突然その名前に覚えがあることに気づき、家に戻った。本棚から引き出した一冊の写真集には、ジョージ・モーブリイと書かれていた。	十代の頃、あるアラスカの写真集の中の一枚の写真が気になっていた「僕」は、その写真に写っている村に手紙を出した。 半年後、村のある家族からの返信を受け取った「僕」は、約半年の準備を経て、アラスカに向かった。その村で過ごした三か月は強烈な体験として「僕」の心に沈澱していき、「僕」は人の暮らしの多様性にひかれた。	写真家となった「僕」は七年ぶりにアラスカに戻り、それ以来アラスカで十四年を過ごしてきた。 あの写真を見たことをきっかけに「僕」の人生は動いていったが、その写真を撮ったのがジョージ・モーブリイだった。 ホテルで会ったジョージ・モーブリイは、「僕」のこれまでのいきさつを聞くと、目の奥に優しい笑みをたたえて話しかけた。「僕」は、日々の暮らしの中で無数の人々と擦れ違いながらも出会うことがないという悲しみは、人と人とが出会うかぎりない不思議さに通じているのだと考える。

確認テスト

(1) 次の各文の出来事を、最も過去のものから順に並べかえなさい。教科書本文を読んで、問いに答えなさい。

ア ホテルに向かっていた「僕」は、これから会おうとしている人物の名前に覚えがあることに気づき、車をUターンさせた。

イ ある日、東京、神田の洋書専門店で一冊のアラスカの写真集を見つけた「僕」は、いつもその写真集を持ち歩くようになった。

ウ 写真集の中の一枚の写真が気になっていた「僕」は、その写真に写っていた村に手紙を出し、村を訪ねることになった。

エ ホテルでジョージ・モーブリイに会った「僕」は、古い写真集を取り出し、彼にこれまでのいきさつを話した。

〔　→　→　→　〕

(2) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア ジョージ・モーブリイは「僕」の手紙に返事を送り、シシュマレフ村で十九歳の「僕」を迎え入れてくれた。

イ 十代の頃「僕」はある一枚の写真にひきつけられており、その写真を撮ったのがジョージ・モーブリイだった。

ウ ホテルで十四年ぶりにジョージ・モーブリイに再会した「僕」は、これまでのいきさつを話し旧交を温めた。

〔　〕

(3) 本文の内容に合うものを選びなさい。

ア 同じ時代を生き、日々の暮らしの中で擦れ違うということは、それ自体がその人との喜ばしい出会いであるといえる。

イ 遠く離れたところに暮らす見知らぬ人々も、日々擦れ違うような人々も、暮らしのあり方は不思議と似ているものである。

ウ 日々無数の人々と擦れ違いながらも出会うことがないという悲しみは、人と人とが出会うかぎりない不思議さに通じている。

〔　〕